

## IV 研究問題と協議内容

### 1、第1分科会

第1分科会は、「生徒が表現したい、活動したいという思いや願いを引き出すにはどんな題材や展開がよいのか」を焦点に協議が進んだ。その中で、生徒の実態を把握しながら、題材を通してどんな資質・能力を身につけられるようにしたいのかを明確にした授業づくりの大切さが見えてきた。協議内容から、分かったことや深まったことを、共通していると感じた題材ごとにまとめた。

#### 資質・能力を身につけるためには 指導事項の明確化とねらいの焦点化

##### ①浅間中学校 赤羽雄太先生「My Special Avatar とび出せ私の分身」

自分らしさをキーワードで広げていった生徒が自分自身のイラスト（アバター）を作成した生徒達が、形態を把握する力や発想・構想の力を発展させるために粘土で立体化を行った。

- ・制作の見通しの中で、生徒達はイラストを立体化させようとする意識がなかったのではないかな。また、自己の内面と向き合うのは中学生1年生には難しさもあるので、自己紹介などのテーマで簡単に作成するもの即興的につくるような題材設定でもよかったのではないかな。

##### ②付属松本中学校 鹿野耕平先生「ひのきの掛け軸～立体文字の切り抜きの場面～」

身近な看板を鑑賞し、自分の道しるべとなる一文字のイメージにあう字体にデザインし、糸鋸で木を切りぬき、文字の色や和紙を選択することを通して、込めた思いが表現できるように制作した。

- ・鹿野先生ご自身がA表現の(1)か(2)なのか迷ってしまわれていたが、どんな資質・能力を育成したいのか、指導事項を明確にして素材や題材を選択したい。また要素が多いので、生徒によっては処理がしきれない可能性がある。

#### デザイン、工芸での目的や条件の中に他者意識をもつこと

##### ①両小野中学校 高野菊丸先生「温もりの灯り ～美しい光と空間～」

光の形やどんな方向に向きたいかという願いから、アイデアスケッチをもとにランプシェードの制作を行った。成形方法をたたら成形にしぼり、自分のテーマに合う色の釉薬がけを行った。

- ・地域の素材(土)をいかして制作していることが、生徒達の制作のモチベーションにつながっている。さらに工芸として目的・条件に関わって、生徒の願いが考えられるとよかった。「地域に飾ろう」「〇〇のためにつくろう」など相手意識、他者意識があると制作意欲のさらなる高まりが期待できるのではないかな。

##### ②安部元彰先生「あの人にあげたいティッシュボックスのデザイン」

平塗りの技法や色彩の基礎技法をいかしながらアイデアスケッチをするときに相手に喜んでもらえる魅力あるデザインをテーマに制作を行った。

- ・贈る相手のイメージを表現するために、美の要素やモダンテクニックの技法を掲示することで、制作時間の確保やイメージの広がりにつながったのではないかな。制作後、実際に相手へティッシュボックスを贈ることで感想をもらったことが、次の制作の意欲にもつながったのではないかな。

#### 授業の環境設定について

##### ①付属長野中学校 千原 厚先生「ここにこんな絵を飾りたい」

展示したい場所から連想したイメージやその場所への思いや気持ちから、色や形の組み合わせを考えた生徒達が友達の提案を参考に主題に合う表現方法を選んで制作を行った。

- ・事前に校内の各所に参考作品を展示することで、制作への意欲を高めることができた。また、制作途中で悩みを友に提案しあう場を設けることで、表したいイメージを追求できた。
- ・題材や学習プリントが複雑になり過ぎないようにしたい。育成する資質や能力をもう一度明確にして題材を考えたい。

## ②辰野中学校 齋藤明子「わたしが描く水墨画の世界 ～どんな感じ？漢字？～」

漢字からイメージした感じを表すために、水墨画の試作や構想を重ねていく中で、アイデアやイメージが変化してもよい構想の時間を設けた上で制作を行った。

- ・情報コーナーを設けて、参考作品や生徒作品を掲示することで、表したいイメージを広げることができた。また、説明の時間を省くことで制作時間の確保を行った。

## ③岡谷北部中学校 青木香織先生「ついついつらつら金屏風」学び合える授業環境について

屏風の「対になるもの」「連なるもの」を、身近なものをテーマにアイデアスケッチを重ねて制作を行った。

- ・生徒指導上で落ち着きの無い生徒達にどのような、題材や展開であればよいかも協議した。自分たちの作品で鑑賞を行うことで、共通なものを見つけ、お互いに認め合い、生徒の自信につなげることが制作の意欲につながるのではないかと。座席も制作の意欲を引き出し合うようにグループを考えてみることも大切である。

文責者 辰野中学校 齋藤明子

## 【第2分科会】

### 1 討議題1「B鑑賞」

(1) キュビズム的な表現を制作体験した生徒が《ゲルニカ》を鑑賞し、グループや友との意見交換を行いながらピカソの心情に迫っていく鑑賞学習。生徒同士の関わりについて。(鉢森中学校)

#### ①協議内容

ゲルニカに描かれた絵と作者の心情に結びつけることは難しく、手立てが必要。ゾクゾクという生徒の記述や、牛が良いモチーフか、悪いモチーフかという捉えの違いを伝えていくことで、他の生徒にも見方が広がっていく手立てになるのではないかと。

#### ②指導者助言

今回は追体験型で、キュビズムで感情を表せるという気づきの場面をつくることがよかった。情報を伝えるタイミングは大切であり、答えを言うのではなく、考え方を広げるために伝えていきたい。また、生徒に考えを聞く場面ではどうしてそう思ったのかではなく、どこからそう思ったのかと視点を定めることが大切である。

### 2 討議題2「A表現(2)」

(2) ICT 機器を用いた実践授業。iPadの「Pixelmator」というアプリを用いて、ピクトグラムを発想・構想していく。(伊那市立東部中学校)

#### ①協議内容

生徒の飲み込みが早く、躍動感のあるものが制作できていた。どこの何に注目すればよいのか着眼点を設けることが大切である。アプリによる制作はどこまでが美術として扱っていくのかは検討であるが、制作を助けるアプリは多くあり、利用の価値のあるものは大いに活用していくとよい。

## ②指導者助言

クラスの問題からピクトグラム制作をスタートしていることがよい。伝えたいことが明確にもてるのが大切である。アイデアスケッチは言語活動であり、制作の見通しや考える力をつけるためのものである。鉛筆の場合であっても、何のためにしていくのかという点を忘れずに行いたい。

- (3) 表したい季節の感じを表すために、構成美の要素を使ってランプシェードを構想していく授業。一人一人の表したい感じを追求できる支援や鑑賞のあり方。(丸子中学校)

## ①協議内容

和を感じるためか、ランプシェードをつくるのか、ねらいをより明確にしていく必要がある。構成美や教材に縛られずに大きいものを用意したり、形の単純化に焦点を当てたりして生徒の願い、思いをより表せるような工夫をしていくとよい。

## ②指導者助言

日頃の授業をこのような形でまとめていくことは大切である。実践では、生徒の願いや思いを大切に、A表現(1)か(2)であるかを位置づけていく必要がある。鑑賞で、どんなことを表しているのだろうと考えることが表現につながる。題材全体を通して、鑑賞と表現の関係を考えたい。

- (4) 平面で段階を用いたイメージを行い、心の状態を表現する木を用いた抽象彫刻。(穂高東中学校)

## ①協議内容

形の抽象化には4コマの段階を経たが、抽象化には難しさを感じる生徒もいた。抽象では出会わせ方も大切である。木を使うことが抽象化に適切か。作業的な場面では粘土や石なども有効でないか。できることと、できないことを伝えていくことが大切である。

## ②指導者助言

「ポジティブストーン」など題材名は大切である。生徒にこうしたいなあと思わせられる題材名を考えたい。抽象作品でも思いを先にすることで表現ができるので思いをもたせることを大切にしたい。

## 3 討議題「A表現(1)」

- (5) 自分の考えや願いをもとに発想・構想していく手ぬぐいのデザイン。生徒が表現追求していくための指導方法について。(豊丘中学校)

## ①協議内容

インクの代わりに布用の絵具を使うことでグラデーションが自由に行うことができることがよい。手ぬぐいは押す場所が検討しづらいが、模造紙に下描きをしたものを参考に押していくとよい。デザインでは1個を組み合わせてユニットとして表していくなど押し方によって幅が広がる。

## ②指導者助言

スタンプを押す場面では、メラニンスポンジを用意するなど制作の工程ごとに生徒の段取りを考えている姿がある。題材によって教科との差があいまいになるものもある。美術では色、形を使って表現しどう伝えていくか、どう表現していくかという視点を大切にしていきたい。

## 4 討議題「A表現(1)」

- (6) 場所から発想させた主題を形や色、表現方法を工夫して表現していく活動。(附属長野中学校)

### ①協議内容

1年生から場所から主題を生み出し抽象表現をしていく姿がすごい。どのタイミングで生徒の提案を出していくかという点は迷う。(2)の表現なのに(1)の自分の内面の表現になっていることに意外な点を感じる。技法体験から発想をしていくのもよいのではないかな。

### ②指導者助言

発想のきっかけは場所である。最終的には離れていってもよいが(1)か(2)か区分けが必要。造形遊びから発想も大切であるが、どんなことを感じ取らせるかが大切。代表の生徒が自分の困っていることを発表するのは、学習問題を位置付けるよい機会になる。この時間に解決したい学習問題、解決する見通しとしての学習課題を意識していきたい。

(7) 既習の学習を生かして、自分で表現主題を決定し、表現方法や材料を考えて卒業制作を行う。

(小布施中学校)

### ①協議内容

3年間でつきたい力を考えながらカリキュラムを考えて行ってきた。学習したことを活用する場面を設定し、表現主題を決めてきたが活用する場面や生徒の関わりをどのように位置づけるかは難しい。ボックスアートでも主題が大切になってくる。題材、発想の所で一度、生徒の話し合いをすることが大切ではないかな。

### ②指導者助言

3年間のカリキュラムで色々なことを体験することは大事である。既習の活用は、毎時間振り返りを行って繋げていくことが大切である。学習をまとめた材料ボックスがあることは生徒の発想がしやすくなりよい手立てである。

文責者 上田市立丸子中学校 羽田光